

松崎市長新春インタビュー「小浜を研ぐ！集大成の年に」

北陸新幹線「小浜・京都ルート」決定、まちの駅・旭座のオープン、進む日本遺産の整備、サバ養殖の開始。飛躍の年となった平成28年、そして小浜の未来を、3期目を迎えた松崎市長が語る――

市長 私は3期目の公約に「研ぐ」という言葉を使いました。新たに何かを作るのではなく、今あるものを生かしながら、小浜の更なる発展につなげたという思いを込めています。

①産業をみがく、②観光をみがく、③文化・教育をみがく、④生活をみがく、⑤行政をみがく、の5つの公約に沿って、各種の施策に取り組んでいきます。

「産業をみがく」について

市長 若者の流出抑制やU・I・Jターンの促進は、真っ先に取り組むべき重要施策と捉えています。「雇用対策協定」を福井労働局と結び、国と地方自治体とが一体となり雇用の諸問題に取り組む体制を作りました。

伝統産業の後継者育成支援につきまして、後継者不足が一番の問題となりました。後継者育成事業により、若狭塗製造業の研修従事者を募集したところ、1人応募があり、10月から伝統工芸



まちの駅をはじめ、市内の飲食店や民宿で、養殖サバの提供がスタート

士の指導のもと、研修に入っています。地域全体で農業を守っていく体制づくりにつなぐには、平成27年の宮川地区に続き、28年は松永・国分地区、飯盛地区で話し合いが進められ、合計で約180畝の農地が集積されました。これまで整備を進めてきた大規模園芸ハウスも、尾崎区で新たに1カ所本格稼働を始め、市内の大規模ハウスは4カ所目と県内最多となりました。「鯖、復活プロジェクト」として、サバの養殖と情報発信にも取り組み、多くの反響がありました。また、トラウトサーモンについて、市漁業協同組合、漁

業者、民間企業からなる協業体を設立し、11月から大規模養殖を開始しました。

「観光をみがく」について

市長 5月にオープンした「まちの駅」は本市の新たな観光および文化の情報発信拠点施設として認知されつつあります。「まちの駅」「道の駅」「海の駅」の3駅が連携し、切れ目のない施策を展開することで、にぎわいの創出を図っていきたくと考えています。

「御食国若狭と鯖街道」の日本遺産認定以後、ブランド力を生かした地域活性化として、鯖街道の起点におけるサバの養殖やPRなどに取り組んでいます。街道沿いの遠敷地区には古民家を改装した2軒の観光お休みどころ「清右衛門」「助太郎」を整備しました。今年からは鯖街道終点である京都との連携や情報発信に力を注ぎ、多くの観光客でにぎわう京都からの観光・経済交流の促進につなげていきます。

「文化・教育をみがく」について

市長 小浜美郷小学校の建設につきましては、11月から校舎や屋内運動場の

が経過し、支援を必要とする高齢者にとって介護保険サービスは欠かせないものとなっています。平成26年の介護保険制度改正により、「通所介護」と「訪問介護」が、市町村独自のサービス提供が可能となる介護予防・日常生活支援総合事業へ移行することとなりました。本市においても高齢者ができる限り住み慣れた地域で自分らしく生活できるよう、地域での支え合い体制づくりと仕組みづくりを努めていきます。

「行政をみがく」について

市長 本年4月から、市税、国民健康保険税および上下水道料金の納付がコンビニエンスストアでできるようになります。市民の皆様がいつでも気軽に納付できるようになり、税等の収納率の向上にもつながると考えています。

ふるさと納税につきましては、市のPR、地場産業の活性化、市の財源確保等に効果的な施策と考えています。本年度は目標額を2億円に設定し、お礼品の追加や窓口の複数化などに取り組んできました。結果、12月に目標額



ふるさと納税を生かし、地場産業の活性化や観光交流人口増加を目指す

今後の抱負は

市長 本市を取り巻く状況は、少子高齢化の進行や人口減少問題など、より一層厳しさを増しておりますが、安定した雇用の創出や、「まちの駅」「道の駅」「海の駅」の3駅連携、日本遺産ブランドを活用したまちづくりなどの取り組みを通して、交流人口の一層の拡大を図り、地域の活性化につなげていきます。北陸新幹線「小浜・京都ルート」決定により小浜の新たなまちづくりが始まります。未来の小浜が新幹線整備効果を最大限生かせるまちになるよう、市民の皆様と一緒に取り組んでいきたいと考えています。



聞き手／坂口 みゆき アナウンサー
(チャンネルO・12月25日)

今あるものを生かしながら、小浜の更なる発展につなげたい

を締結し、「落語のまち小浜」を県内外に広くPRできるものと期待しています。福井しあわせ元気国体および福井しあわせ元気大会に向けての施設整備が、本年3月に整う予定です。プレ大会として6月にラグビー、11月にウエイトリフティングの大会も開催されます。ボランティアの皆様のご協力を得ながら、機運を盛り上げていきたいです。

内市町との「災害時等相互応援協定」を見直し、災害時の応援体制の強化を図りました。また、避難者の良好な生活環境を確保するための避難所運営マニュアルを策定しました。原子力防災については、県外広域避難先である兵庫県9市町すべてと「災害時相互応援協定」などを締結しました。

主要道路の整備については、市内には、舞鶴若狭自動車道をはじめ、主要道路が東西南北にあります。歩道の未整備区間や、線形改良の必要な箇所、老朽化した橋梁の架け替えが必要箇所などがあり、国・県に対して引き続き要望をしていきます。

介護保険制度が創設されてから15年

市長 防災対策について、県および県

新幹線ルート決定で新たなまちづくりが始まる